

東川町の青少年吹奏楽団一行の 아일랜드 来訪に際する北野大使挨拶

(9月20日)

(はじめに)

東川町の皆さん

本日は、在アイルランド日本国大使館の大使公邸にお越しいただき、ありがとうございます。私も、小さい頃、北海道に住んでいました。今回、アイルランドに来られたことを心から歓迎いたします。

一昨日は、ゴールウェイで素晴らしい演奏を聴かせていただき、ありがとうございました。最初の「飛鳥」は大変難しい曲と思いました。吹奏楽の楽器で、日本の和の雰囲気を見事に表現され、見事であったと思います。「ソーラン節」は、楽器の演奏、合唱、パーカッションが融合した力強い演奏で印象的でした。最後の「ダニーボーイ」、これはアイルランドにとって大切な曲ですが、皆さんと、現地の二つのグループのコラボが胸を打ちました。本日、ダブリンでのコンサートも大変楽しみにしております。よろしく願い申し上げます。

9月10日に出発してから10日以上が経っており、長期遠征となっておりますが、皆さん体調の方は大丈夫でしょうか。

本日、せっかくの機会をいただきましたので、お時間をいただき、アイルランドのこと、大使館がどんな仕事をしているかを少しお話しさせていただければと思います。

(日本とアイルランド)

アイルランドについては、皆さんも当地に来られる前に、いろいろと調べたり、学ばれたりしたことと思います。また、当地で、アイルランドの方々と交流されたり、各地を訪問されたりしてご自身で体験されたことも多くあると思います。私は、アイルランドに来てから3年ちょっと経ったところですが、一言で言うと、「規模は小さいが活力のある国」という印象が強いです。日本との比較で言えば、人口でも、面積でも規模は小さいです。どちらも国全体でほぼ北海道と同じくらいの規模です。その一方、とても活力のある元気な国であると思います。日本と比較すると、相違点、共通点の両方があります。日本との相違点をあげると、歴史、宗教をあげることができます。アイルランドは、過去、約750年にわたり、イングランド/英国の支配を受けてきました。これは、アイルランドの

さまざまな側面に大きな影響を与えています。日本が、第二次世界大戦後の一時期、連合軍に占領された経験しかないのとは大きく異なります。また、宗教について言えば、アイルランドはキリスト教、特にカトリックの影響が強い国です。神道や仏教の影響を受けてきた日本との違いも目に付きます。

このような相違もありますが、共通点も少なくありません。まず、日本もアイルランドも島国です。地理的に言えば、大陸の周辺に位置する島国という点でも共通しています。一方には大陸があり、もう一方には大きな海が広がっているという点も共通です。こうした地理的な共通点は、国柄の共通点にもつながっています。このような地理的な環境にあるため、日本もアイルランドも、世界とつながることが大事な国です。そのため、貿易や外交が重要になります。貿易は他の国からモノを輸入したり、輸出したりすることで、お互いに利益を得るものです。外交は他の国と仲良くし、円滑な関係を築くためのものです。また、自由、民主主義、人権、法の支配といった基本的な価値を共有しているという点でも共通点があります。長い歴史と独自の文化を持っていることも共通しています。皆さんも、アイルランドの音楽に接してそれを感じられたのではないかと思います。その意味で、アイルランドは、日本にとって協力関係を強めていくべき国と思います。また、うれしいことにアイルランド側も日本について協力関係を強めていくべき国と見ています。アイルランドにおいて政治の最高責任者は首相のポストであり、現在、ミホル・マーティンという人が首相を務めています。マーティン首相は、7月下旬に日本を訪問しました。新型コロナ・ウイルス感染症で、海外出張や対面での外交が難しい時期が続きました。マーティン首相は、欧州の中、関係の深い米国には出張に行っていました。こうした地域外への海外出張としては、日本への訪問が初めてのものとなりました。日本との関係を重視していることの表れと思います。

(大使館の仕事)

今、7月のマーティン首相の訪日のことを申し上げました。このように国と国との関係を増進するのが大使館の仕事です。国と国との関係は、さまざまな分野に及びます。日本は、米国と安全保障条約を結んでいます。国の安全を確保する安全保障の一つの柱となっているのが、米国との関係です。外国の製品を日本に輸入する際に、関税がかかるものとそうでないものがあります。そうした経済の枠組みも国と国との約束事によって決められます。外国に旅行や出張をする際に、

査証が必要かといったことも国と国との関係によって決められます。私たちがアイルランド日本国大使館では、日本政府の出先機関としてアイルランドとの関係の増進を図る任務を負っています。

それをするためには、アイルランドのことを理解しなければなりません。政治がどのような力学で動いているのか。経済の動向はどうか。どの国と緊密な関係を持っており、どの国と懸案を抱えているのかといったことを知らなければなりません。

同時に、日本のことを理解してもらうのも、大事な仕事です。現在起こっているロシアによるウクライナ侵略のように、世界の多くの国が関心を持つ課題について、日本はどのような政策をとっているのか、日本はそもそもどのような国柄なのかなど、日本のことを知ってもらうために努力を払っています。

今、日本を知ってもらうことが我々の大事な仕事であると申し上げました。それでは、誰に対してそれを働きかけていくのでしょうか。

まずは、相手国の政府です。われわれの場合には、アイルランド政府です。だからこそ、アイルランド政府の最高責任者の首相が訪日するというのは、われわれにとってとても大事な機会になるわけです。

相手国の政府は大切ですが、それだけで良いわけではありません。相手国の国民に広く働きかけていくことも重要です。これは、我々の言葉で「パブリック・ディプロマシー」と呼んでいる活動です。これは、重要な活動なのですが、相手国の国民といっても、数は多く、組織になっているわけでもないので、どのようにして関係構築をし、メッセージを届ければ良いか工夫を要するところです。

我々がここで意識しているのが、どのような層に働きかけていくのか、何によってつながりを作っていくかです。相手国の国民といっても、すべての人を相手にするわけにはいきません。そこで、オピニオン・リーダーの人、日本のことをよく知っている知日層、日本に好意を持ってきている親日層、将来を担う若者などが大事です。どうやってつながりを作っていくかでは、スポーツ、文化・芸術など相手が関心を持ってくれる分野を関係構築の入り口にしていくわけです。

皆さんのやられた音楽も、絵画や舞台も、スポーツも、言葉がなくても心を通じ合わせることができます。その意味で、関係構築の入り口として貴重な分野なのです。

皆さんの今回の交流事業は、皆さんにとっての意義に着目した事業ですが、将来を担うアイルランドの若者に日本に関心を持ち、日本との絆を持つ層を作って

いただいた点で、私どもにとっても大変ありがたいものです。東川町では、これまでアイルランドとのご縁を大切にいただき、改めて感謝申し上げます。

(締めくくり)

今晚のコンサートでアイルランドの主要日程が終わり、明日は、帰路に着かれるところと思います。皆さん、今回、アイルランドに来られたこと、アイルランドの若者との交流の経験を皆さんの今後に活かしていただければと期待します。今回の経験を通じて、東川町が大変素晴らしい町であることを感じました。東川町スピリットとでもいうべきものを感じました。多くの困難があった中、今回の交流事業が実現したのは、東川町スピリットのおかげだったのではないかと思います。東川町スピリットとは、前向きであり、大事なことの実現に向けて突き進んでいく精神だと思います。皆さんの前途は大きく広がっており、皆さんも東川町で、北海道で、日本で、そして、世界で活躍していかれることと思います。そうしたときに、前向きで、大事なことの実現に向けて突き進んでいく東川町スピリットを大切にしていだければと思います。

ご静聴ありがとうございました。